

第4回「あと数マイル・プロジェクト」推進検討会議議事概要

- 1 日 時：令和7年7月14日（月）14時00分～16時00分
- 2 会 場：埼玉教育会館 201会議室
- 3 出席委員：久保田尚、金山洋一、伊藤香織、生田美樹（順不同、敬称略）
- 4 配布資料：次第、委員名簿、資料1、資料2、資料3
- 5 内 容

（1）開会

（2）挨拶

（3）会議の公開

- ・率直な意見交換を行うため、また、発言によっては特定の関係者の利害に影響がある内容を含むと考えられるとの意見を踏まえ、意見交換は非公開の扱いとすることとしたこれまでの会議と同様の取扱いとすることを決定した。

（4）議題（委員からの主な意見）

ア 各路線共通の課題に関する意見

- ・鉄道の議論をするに当たっては、将来の道路状況がどうなるのかも合わせて議論すべき。
- ・人口減少に加え、人手不足によりバス路線も減少しているが、そういう状況がこれからもっとはっきりしていく。将来も安心して住める地域のイメージを持ちながら延伸路線の位置付けを整理すべき。
- ・県だけではなく、延伸元である東京にとってもメリットがある。東京も含めて、ウェルビーイングにつながる住みやすい都市になっていく、そういう観点での整理が重要である。

イ 東京12号線、東京8号線に関する意見

- ・西武線や東武線にアクセスする南北の道路の混雑が非常に激しいことから、鉄道延伸は、道路の混雑緩和効果があると考えられる。（12号線）
- ・立地適正化計画で居住誘導区域になっているかどうかは確認した方がよい。策定済みや検討中の自治体も含め、現在の人口密度と、今後、自治体がどういうビジョンを描いているのかということを重ねて考えるべき。（12、8号線）
- ・延伸に熱意の高い自治体には、人口密度が低く整備効果が出にくいところもあるのではないかと。そのため、熱意と経済性のアンバランスをどう折り合っていくのか、まちづくりに対しての気運醸成が大きな課題である。（8号線）

- ・自治体としては、都市計画を変更する手続きは大変な作業である。次期答申に向けて、どのタイミングで、誰が何を行っていくのか、順番を整理していくことが大事な時期に来ている。(12, 8号線)

ウ 日暮里・舎人ライナー、多摩都市モノレールに関する意見

- ・例えば、川口と草加を横方向につなぎ、足立区民の一部が南北線や伊勢崎線で直接都心まで行く方が便利になるような路線を設定できるならば、今の日暮里・舎人ライナーの混雑度が下がる可能性もある。乗換の利便性と時間信頼性の確保が非常に大事である。(日暮里・舎人)
- ・新交通システムは街路事業なので、道路ネットワーク全体を考える議論と新交通についての議論は一緒にできるように、街路事業を所管する部局にも参加していただくべき。(日暮里・舎人、多摩都市)
- ・多摩湖の上を通過することには観光の視点からも魅力があり、民間活力を活用したロープウェイ事業は可能性がある。P F Iを含めて、民間事業者に運営権のみを付与するコンセッションなど、民間から手が挙がるような事業スキームについて検討してもみてもよい。(多摩都市)
- ・観光は地域にとってメリットがあり、観光に関わる費用で経済が回っている。運賃だけで何とかしようとするには限界があるので、外部経済効果を考えながら、それをどうやって取り込んでいくのかといった視点も重要。(多摩都市)

(5) その他(事務局からの連絡)

(6) 閉会